

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー I		TCH108
講義名（コード）	TCH_ビジネスマナー I_A		TCH108A
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	花井、米村	時間数	30
成績評価教員	米村 真識	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務家教員による授業である。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

到達目標・目的	・専門力における、サービス分野の学びの中で、学生がホスピタリティの基本を理解しビジネス実務マナー知識の習得、及び演習を通してビジネス社会の基本ルール（職場常識）を理解できるようになる。
全体の内容と概要	・ビジネスマナーにおける基本的な知識を学び、ビジネスマナーにおける実践力、社会人としてのマナーを身につける。ビジネス実務の遂行に必要な一般知識の習得、業務遂行を行うのに必要な技能の取得。 ・自己の考えを表現する力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる。
授業時間外の学修	・授業開始までに、必ず一読してくること。 ・復習課題としてレポートの提出を求めることがあります。
履修上の注意事項等	・マナーの授業であると心得、授業中の態度、及び言葉遣い等に気をつけること。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	・前期授業への取組、資格取得に向けてモチベーションをあげる	・前期オリエンテーション・授業の受け方 ・予習復習への取組等について
2	・ビジネスコミュニケーションを理解する①	・日本で働く心がまえ ・上司、先輩との付き合い方
3	・ビジネスコミュニケーションを理解する②	・同僚との付き合い方 ・就業時間外の付き合い方
4	・ビジネスコミュニケーションを理解する③	・ウチとソトの関係 ・チームワーク
5	・ビジネスコミュニケーションを理解する④	・配慮のある話し方・話の進め方 ・単元（ビジネスコミュニケーション）で学んだことの総括
6	・ビジネスのルールを理解する①	・時間厳守・就業時間 ・身だしなみ
7	・ビジネスのルールを理解する②	・あいさつ・お辞儀 ・報告、連絡、相談
8	・ビジネスのルールを理解する③	・情報管理・ハラスメント ・単元（ビジネスのルールを理解する）で学んだことの総括
9	・社内のマナーを理解する①	・話を聞くとき・指示を受けるとき ・注意を受けるとき
10	・社内のマナーを理解する②	・退社時のマナー ・葬儀のマナー
11	・社内のマナーを理解する③	・贈答のマナー ・食事のマナー
12	・社内のマナーを理解する④	・お酒の席のマナー ・単元（社内のマナーを理解する）で学んだことの総括
13	・前期1～12までの纏めを確認	・前期1～12までの纏め及び、前期期末試験のプレテスト
14	・前期期末試験	・前期期末試験実施
15	・前期期末試験についてFB	・前期の総括 前期期末試のフィードバック ◆第15回授業：8月8日（月）課題実施日

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	・ISBN：9784820727767 書籍名／出版社：留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール／日本能率協会マネジメントセンター
参考文献・資料等	・社会人常識マナー検定JapanBasic ・早稲田教育出版ビジネス実務マナー検定受験3級ガイド、3級実問題集他
備考	・授業内にロールプレイング、演習を実施する。 ・本教員は、専門コンサルタントや秘書業務を歴任。社会に出てから必要なマナー等を実体験を通じた授業を展開。